

学校給食だより 秋田っ子給食

NO-206

公益財団法人秋田県学校給食会

1月24日から30日までは全国学校給食週間です

1950年（昭和25年）に文部省が通知した「全国学校給食週間の開催」により毎年1月24日から1月30日と定められ、1951年（昭和26年）から実施されました。これは、学校給食記念日である12月24日が多くの地域で冬休み期間に当たるため、1か月後の1月24日から1週間としたことによります。

我が国における学校給食は、明治22年に山形県鶴岡市の私立忠愛小学校で、お弁当を持っていくことができない子どもたちのために、昼食を提供したのが始まりです。それ以来、全国各地に広がっていききましたが、当時の給食は、おにぎり、焼き魚、漬物などでした。その後、戦争の影響などによって中断されましたが、第二次世界大戦後に、食糧難による児童の栄養状態の悪化を背景に学校給食の再開を求める国民の声が高まるようになり、昭和21年6月に米国のLARA（Licensed Agencies for Relief in Asia：アジア救済公認団体）から、給食用物資の寄贈を受けて、昭和22年1月から学校給食が再開（「学校給食実施の普及奨励について」昭和21年12月11日文部、厚生、農林三省次官通達）されました。

昭和21年12月24日に、東京都内の小学校でLARAからの給食用物資の贈呈式が行われ、それ以来、この日を学校給食感謝の日と決めました。昭和25年度から、学校給食による教育効果を促進する観点から、冬季休業と重ならない1月24日から1月30日までの1週間を「学校給食週間」としました。

子供たちの食生活を取り巻く環境が大きく変化し、偏った栄養摂取、肥満傾向など、健康状態について懸念される点が多く見られる今日、現在の学校給食は、栄養バランスのよい食事で成長期の子どもの健やかな成長を支え、子供たちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるために重要な役割を果たしています。また、地域の地場産物や食文化などを学ぶ教材としての役割もあります。

学校給食週間においては、このような学校給食の意義や役割について、児童生徒や教職員、保護者や地域住民の理解を深め関心を高めるため、全国で様々な行事が行われます。学校給食は、学校給食法に基づき実施され、児童生徒の食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たしています。

「全国学校給食週間」の詳細はこちら| https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/...